

# Library News

Nov. 1979.

滋賀医科大学附属図書館報

目	次
学術情報システムと大学図書館 .....	1
シリーズ「図書館に望む」—各層からの意見.....	2
オンライン文献検索 — MEDLARS を利用して.....	4
「河村文庫」の概要について .....	5
「守一堂蔵書」の寄贈について .....	5
視聴覚教材・人体模型展示会を開催 .....	6
図書館の活動 (54・6～10) .....	6

## 学術情報システムと大学図書館

— 学術審議会「中間報告」について —

附属図書館長 野崎光洋

世界の最新の学術情報を常時的確、迅速に入手し利用することは優れた先駆的、独創的な研究の発展を図るために不可欠な基本的条件である。しかし、学術情報の多量化と多様化の今日、個人的なレベルで必要な情報をもれなく収集することは非常に困難であり、特に我が国の学術情報流通システムは国際的にみて立ち遅れている現状で、新しいシステムの整備が強く望まれている。このような状況において学術審議会が文部省の諮問を受け「今後における学術情報システムの在り方について」の構想をまとめ中間報告として公表した。

その骨子は既存の大学その他の教育、研究機関における図書館、大型計算機センター等を中心とし一次情報の整備、我が国独自のデータベースの形成、ならびに情報検索利用システムの全国的ネットワークの構成により、散在する各種の情報資源の総合的かつ効率的な利用を図ろうというものである。この学術情報ネットワークに於いて、各大学の図書館は、利用者への窓口又はターミナルとして一次情報の蓄積、供給、所在情報形成、情報検索などの機能を有するものとして位置づけられている。したがって、各大学の図書館には、学術情報システムの重要な構成機関としての新しい発展が期待されている。

新しいシステムの実施に関してはまだ解決しなければならない多くの問題点を含んでいるが、国家的規模で学術情報流通システムの整備に取組み、そのシステムの在り方、現状分析、今後の方向づけがなされたことは画期的なことである。各図書館においても、全国的な学術情報システムの早期確立を目指し、当面可能なことから中間報告に沿って相互利用活動の改善、促進に努力すべきであろう。

学術情報システム概念図（中間報告資料編より）

（解説）

（情報検索サービス）

1. 大学等における情報の利用者(研究者等)が情報検索を必要とする場合、当該大学の図書館において、情報検索の訓練を受けた図書館員に必要な情報の内容を説明し、図書館員はそれにより適切な検索式を作成し検索用端末機により利用者に代わり検索する。
2. 利用者のうち、自分で検索を希望する者は、図書館若しくは場合によっては大学における研究室等に設置された端末機により自ら検索をすることも可能とする。

（目録情報の利用）

3. 大学図書館は、受入図書目録等の作業に際して、センター機能により提供される機械可読型目録情報データベースから小型コンピュータ等により必要なデータを検索・利用する。また、データベースの中に存在しない図書目録情報に対しては、暫定的にデータを入力することができる。

（所在情報の形成）

4. 各図書館は、これらの目録作業を通じてセンター機能により提供される所在情報データベースにその受入情報を登録する。これにより全国的な所蔵図書の所在情報が自動的に形成される。

（資料の相互利用）

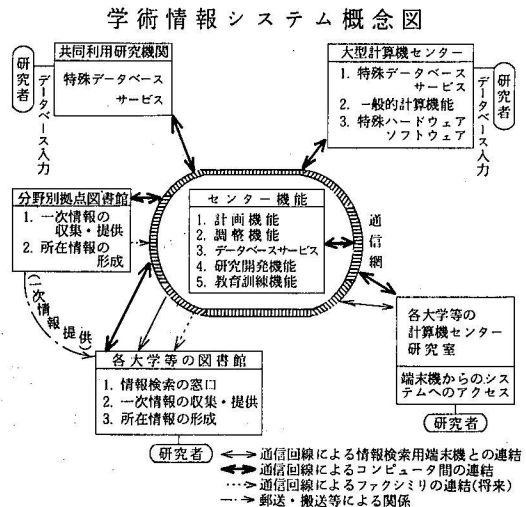
5. 大学図書館と分野別拠点図書館との間、あるいは図書館間は相互の端末装置を通じて資料の相互利用の申し込みができるようになる。資料の提供そのものについては郵送・搬送等の手段によることとなるが、将来はファクシミリ等のより効率的な伝送手段により提供することが期待される。

（データベースの形成）

6. データベースの形成については、大型計算機センター、共同利用研究機関等の適切な機関が研究者の入力に対して協力することになる。

（コンピュータ資源の共同利用）

7. 各大学の計算機センターは通信網を介して大型計算機センターと連結し、一般的計算能力、特殊なハードウェア、ソフトウェアを共同利用する。



「文部広報」691号から転載

## シリーズ「図書館に望む」—各層からの意見

今年3月、図書館の竣工以来、利用者各層にわたってよりよいサービスに努めてまいりましたが、まだまだ不備なところがあり、改善すべきことが種々あることと存じます。

このシリーズが一つの契機となって、利用者と図書館とのコミュニケーションがよくなり、よりよき図書館になれば幸いです。

## 1. 教官〔基礎医学〕

第二生理 西尾 恭介

大学の図書館というのは利用度／コストの面からみた場合、実験器機や医療器機に比し、非常に贅沢なものだと思われる。そのようなことや、また研究費とのかね合いから、図書館に多くのお金を投ずることに反対する人も多いと思うが、図書館は知識の宝庫として、アカデミックなシンボルとして大学の中心的存在であり、ある程度の贅沢も止むを得ないと思う。

私が図書館に抱くイメージは、夜は遅くまで開いていて何時でも利用でき、ジャーナルやそのバックナンバーは完備してあるにこしたことはないが、その有無にかかわらず必要な論文が何らかの方法でスピーディに入手でき、基本的な単行本、データ・ブック、ハンド・ブックは一応充実しており、文献を調べる時以外でも、空き時間などに、なんとなくそこに行きたくくなるような快適な空間である。このような点において、当大学の図書館は、少なくとも新しいということから、相当に満足される状態にあると思う。逆に十分に利用されていないのではないかと思う程である。

日頃気につく図書館に対する現実的な希望は次の様な事であろう。1) 図書館利用のパンフレットを完備してほしいこと。現在は図書館業務の内容が広がっているので、初めて利用する人でもそれさえ読めば当図書館の総てのサービスを利用できるようなコンパクトで完全なものがほしい。2) (1)と関連して、掲示板をもっと積極的に使って情報を流してもらいたい。例えば、新規購入図書のご案内、新しく導入されたサービスについて、新しい図書館利用法のプロパガンダ等。3) 現在、ジャーナルのバックナンバーは過去10年以降のものであるが、特種な

## 2. 学 生

4回生 深作 秀春

本年度より、私達が待ち続けていた図書館が開館したことを、学生の一人として喜んでおります。

私達のような単科大学にとって、これだけの図書館は破格のものである、と言っても過言では無いと思います。しかし、この立派な施設もまだ十分に活用されていないというのが現状のようです。その原因についていくつか学生の立場から申し述べてみます。

第一に、本の選択について、学生の立場で果たして選ばれているだろうか、ということです。教養課程の蔵書はあまりに専門的すぎではないだろうか、と思われてなりません。難解な哲学書を揃えるよりも身近な小説類（文庫本で充分です）を我々は望み、高尚な美学書の文の羅列よりも素直に感動できる絵画の写真集を我々は欲しているのです。又、専門課程の蔵書においても、人気のある図書は常に貸し出し中であるといったことから、人気のある医学書の数の面での充実が一つの課題であると言えましょう。

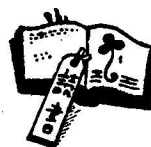
第二に、せっかくの素晴らしい設備が遊んでいる現状があります。例えば、本学図書館にはビデオコーダーを利用した視聴覚室がありますが、これがほとんど利用されていない現状です。この原因を考えますと、教材が直接授業と結びついていない為ではないかと思われる。この打解策の一例として、解剖や病理の実習内容についての教材等が考えられます。こういった授業を補うようなビデオ教材が作られたならば、我々学生が視聴教室に飛びつくこと必定です。

第三に、PRの不足が上げられます。我々学生、特に専門課程の学生は、毎日授業でしぼられ、図書館の情報を積極的に集めるところまで

分野については過去20年以降から揃えてもらいたい。我々の関係している1960年代に一時期を画した電気生理学の分野などでは1960年代の論文を利用する機会が非常に多い。4) 現在の8時までの夜間開館ですら利用者が少ないのに、更に夜間開館の時間延長を望むのは無理かもしれないが、可能な限り遅くまで開いてもらいたい。利用者を信頼した金のかからない夜間開館の延長も考えられるのではないか。5) 学生図書について行っているように、専門図書の購入についてもアンケート箱を設置してアンケートをとってもらいたい。今迄の方法では若い教室員の意見は十分に反映しているとは思われない。6) 最後にブラウジングコーナーをもっと楽しくなる様なコーナーにしてほしい。

手(頭か?)が回らない状態です。例えば、新刊本の紹介や本の推薦等の図書館サービスがあっても良いのではないかと思います。

いくつかの提案をしましたが、これらはいずれも、学生と図書館との情報の交流不足のいくつかの表われに過ぎません。図書選定への学生参加などを通して、学生と図書館とのパイプが太くなっていくことを念願して止みません。図書館は学生から離れた所にあるという気持ちを最大限取り除くことが大切であろうと思われま



## オンライン文献検索 MEDLARSを利用して

精神神経科助教授 山根 秀 夫

昨年11月以来、MEDLARSを利用して頂いた回数が丁度20回になる。そのうち11回が昨年11月に集中している。当時大変喜んでいた事が数字に出ている。そのうち反省期に入り、コンピューターは、やはり“賢い馬鹿”なのだと思うようになった。つまり正しい問を発しなければ正しい答をしてくれないことに気づいたわけである。正しい問というのは適切な Key Word の選択ということで、テーマが特殊であればあるだけサーチ前のサーチャーとの相談が決定的に重要となってくる。専門分野でごく普通に使われている語でも Key Word にないことが多い。この点従来検索に骨折っていたような特殊なテーマはMEDLARSによっても本質的には困難なことに変わりはない。“0ケン”と出ても正しい問が発せられていなければ新しい事ではないかも知れないし、検索期間以前にかたづいていることも知れない。

研究者のなかには文献探索にうつつをぬかす人があり、一方唯我独尊の人もある。古めかしいテーマでも徹底すれば新しいことが見つかるし、ありふれた病気でも徹底して調べれば何か新しい点が見つかるということがある反面、新しい事と思ったものが調べてみると、とうの昔に片付いている場合がある。情報整理に疲れきった脳では創造的能力は枯渇するということは確かにあるので、“賢い馬鹿”を適当に使ってなすことが必要と思われる。



## 「河村文庫」の概要について

産科婦人科学講師 石黒達也

先般、河村家から御寄贈頂いた古書を分類・整理するよう野崎図書館長から命を受けた。何分浅学非才の身ゆえ、なかなか作業がはかどらなかったが、今回医書のみようやく分類する事が出来た。

現代書や綴じが十分でない写本を除いて江戸中期から明治初年にかけての貴重な医書だけでも約140部、冊数にして600冊以上という膨大な量である。

これらの本の中には「玉機微義」(全22冊)「古今医統」(全44冊)

「医宗金鑑」(全八帙)という中国医学の重要な集大成もある。また、「瘍科精選図解」(全2冊、起邑德基著、文政3年刊)といった珍本も含まれている。三谷公器が自ら立ち合った解屍所見をもとに、蘭書を参照しながら著した「解體發蒙」(文化10年刊)なども、今では仲々入手出来ない貴重本である。

このような刊本以外に、写本にも珍しいものが多数ある。例えば「阿蘭持渡軍用外科道具写」(現在展示中)などは一般にあまり流布していない。この写本の解題には「此治療創痕之器也。蘭人『之伊保留止』嘗齋来干崎陽而用之。近者門人某拾千金以購得焉(後略)」とあるので、P. F. B. von Sieboldが初めて来日した文政6年(1823年)に持ち来った道具を写したものであろう。この中には現在も用いる外科ゾンデが紹介されており、その説明には「此器肉中ニ鉄鉋玉入り候節入口ヨリ入レ玉之有無ヲ探リ又疵口及ヒ深サヲ斗ル道具」とある。

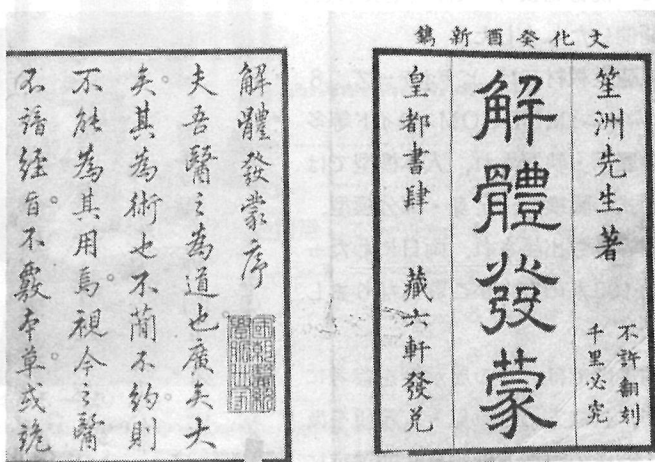
全般的にみて、河村文庫は漢方書が多い。河村家が仕えていた井伊彦根藩がもともと蘭学嫌いであったから、蘭書が少ないのは当然ともいえるのだが、それでも「扶氏經驗遣訓」(フーヘランド原著、緒方洪庵訳)、「窠篤児薬性論」(ワートル原著、林洞海訳)、「遠西医方名物考」(宇田川棗齊著)といった幕末当時、新進気鋭の医者がこぞって手にした代表的な蘭書が含まれているのは興味深い。表向き漢方を標榜しながらも、時代の流れに遅れまいとする当時の医者之苦悩がうかがえるようだ。

それにしても、一字一句丁寧に筆写された写本を目の前にすると、昔の医者が知識を吸収する為にはどれだけ襟を正して勉強していたか頭の下る思いがする。これらの本は、逐次図書館で展示されるので、これを見て、我々が今かくあるのは古き時代に切磋琢磨した先人のお陰である事を理解してもらいたいものだ。

## 「守一堂蔵書」の寄贈について

本学小児科の安倍義明先生より約120点、800冊余の古医書その他の和綴本の寄贈を受けました。これは安永5年(1776年)に現在の近江八幡市で開業された安倍家に代々伝えられたもので「守一堂蔵書」と名づけられています。

現在整理中の河村文庫とあわせて、大切に保存し、利用に供せるようにしたいと思います。



## 視聴覚教材・人体模型展示会を開催

去る10月3・4日、図書館ロビーにて「視聴覚教材・人体模型展示会」を開催いたしました。

視聴覚教材では、ビデオテープ、8mmフィルム、MEDCOMスライド等多数が展示・映写され、人体模型では電動式心臓模型、全身・部分模型、掛図等多数出品され、両日にわたって約100人の方々をご覧になりました。

図書館では、この展示会を参考にして、皆様方のご意見・ご希望を汲み、今後の収集方針や具体的選定に役立てていきたいと考えております。



### 図書館の活動 (54・6～10)

- 54・6・1 近畿国公立大学図書館協議会図書館施設研究集会(本学)
- 6・7 近畿地区医学図書館協議会例会(奈良医大)
- 6・14 薬剤部オリエンテーション
- 6・20 第4回新設国立医科大学図書館会議(本学)
- 6・21～22 第26回国立大学図書館協議会総会(大阪)
- 6・29 近畿地区国公立大学図書館協議会企画委員会(京大)
- 7・2 図書館業務機械化委員会(阪大)
- 7・7 放射線部オリエンテーション
- 7・12 近畿地区医学図書館協議会例会(阪大)
- 7・16 図書館課長・名古屋裕躬氏発令
- 7・19～20 医学図書館員セミナー(九大)
- 7・26 県内病院図書室職員に対する講習会
- 8・1 図書館委員会
- 8・6 大学図書館職員長期研修(東大)(8月31日まで)
- 8・22～24 医学図書館員研究集会(慈恵医大)
- 8・28～30 図書館等職員著作権実務講習会(神大)
- 9・6 「河村文庫」ワーキング・グループ
- 9・7 近畿国公立大学図書館協議会館長、部・課長会議(奈医大)
- 10・1 近畿地区医学図書館協議会例会(関西医大)
- 10・3～4 視聴覚教材・人体模型展示会
- 10・18 国立大学図書館協議会理事会(名古屋)
- 10・25～27 日本医学図書館協議会総会(日本大学)

Library News No.3 (1979年11月)

発行：滋賀医科大学附属図書館 〒520-21 大津市瀬田月輪町 電話 0775-48-2076